



「楷の木」について

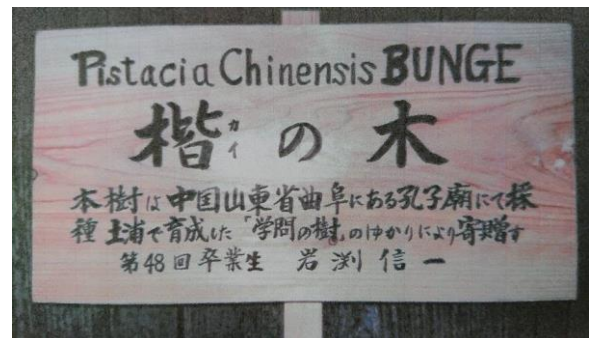
12月21日（月）

この度、本校の楷の木についての由来が判明しました。贈り主は旧制中学 48 回卒の岩淵信一様です。お話によれば、中国山東省曲阜にある孔子廟にて採取された実生（ミショウ）を土浦にある親類の家で若木になるまで育て、「後輩たちが学問に励み、広く世の中で活躍してほしい」という思いを託して平成 15 年頃に寄贈されたそうです（当時の校長は高橋昇様・60 回卒）。立派な成木となった楷の木は、学問の神様である孔子が眠る「孔子廟」からやってきた正真正銘の「学問の木」というわけです。

楷の木が、本校に植樹されるにあたっては、元県立高校長秋葉アキヲ様（51 回卒・故人）と造園業中村真彬様（55 回卒・故人）の協力を得ているとのこと。卒業生の絆の強さが、このようなところにも表れています。

今回の謎解きのきっかけは全くの偶然によるものでした。岩淵信一様のご子息、勉様が下妻市内の金融機関においてあった「下妻の文化」という冊子を手にとったところ、私が寄稿した「下妻一高の樹木について」に目を留め、楷の木の由来が不明であると書いてあったため、私宛に由来を説明する丁寧なお手紙が届きました。

さらに本校の元校長秋葉宗宏様（58 回卒）のお骨折りで、秋葉アキヲ様の奥様から楷の木を植えたときの写真もお借りすることができました。今回のことをご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。これからも「学問の木」を大切にしたいと思います。



植樹当時に建てられた看板



左から
秋場アキヲ 様
成島正敏
副参事兼事務室長
岩淵信一 様
中村真彬 様